

テーマ I 回顧：日中民間交流の歴史

中日民間交流を強化することが両国関係の改善に役立つ意義

中国国際交流協会参事官 文 徳盛



1 中日平和友好条約締結 40 周年の歴史的な意義について

改革開放以来の 40 年間に於いて、中国は国家発展の新しい道を模索している。中日関係も紆余曲折を辿って、大きな発展を遂げている。中日関係の健全な発展は両国民に有利だけでなく、地域並びに世界の平和と発展にも有利である。これは数十年間の歴史によって立証されている。

2 当面の国際情勢の下に、信頼を深め、疑いを解く緊迫性がより目立っている

(1) 中国内政の「二つの百年」の奮闘目標

中国共産党成立百周年 (1921-2021) を目途に、小康社会の建設を全面的に完成させる。中国建国百周年 (1949-2049) を目途に、わが国を豊かな、民主的、文明的、調和的、美しい社会主義現代化の強国に全面的に築き上げる。

(2) 中国外交が唱える「人類運命共同体の構築」、「新たな国際関係の構築」と「一帯一路」建設の推進について

① 人類運命共同体の構築について

人類が同じ地球村に住んでいる事を強調する。

中国は一貫して平和発展の道を歩む。

人類社会の共同的価値を求めることを反映する。

積極的にグローバルなパートナーシップを結ぶ。

グローバルガバナンスの改革と建設に積極的に参与する。

② 新しい国際関係の構築について

相互尊重、公平正義、協力ウィンウィンという新しい国際関係の構築は人類運命共同体を構築する基本的な道なのである。

③ 「一帯一路」建設の推進について

これは人類運命共同体を構築するプラットフォームであり、中国が新たな開放を拡大する重要な措置でもある。「一帯一路」は平和の道、繁栄の道、開放の道、革新的な道、文明的な道であり、沿線各国の国民に幸せをもたらすことができる。

3 日本の民間組織が「一帯一路」の建設に参加するよう

2017 年 5 月に設立された「シルクロード沿線民間組織協カネットワーク」に現在 63 力国の 302 の組織が加入している。「開放包容、相互尊重、相互学習、互恵ウィンウィン」を原則とする。